

平成28年度 子ども育成学部

自己点検評価報告書

1. 概要
2. 現況
3. 教育課程
4. 実習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成29年3月

富山国際大学 子ども育成学部

1. 概要

1. 実績と現状

(1) 学部の理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。2009（平成 21）年 4 月呉羽キャンパスに、少子高齢化時代における地域課題の解決に取り組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部が目指す人材像は、教育的愛情と子どもの福祉(幸福)への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せ持ち、一人ひとりの子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、実践的能力を備えた資質の高い子ども育成の専門家である。

学部開設 8 年目の平成 28 年度は、学生総数 375 名（定員充足率 113.6%）となり、総定員を充足して 2 年目になる。平成 29 年 3 月末には、第 1～4 期生に続いて第 5 期生 89 名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生累計は 386 名となった。

卒業生の成果は、県内の教育・福祉・保育関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も次第に高まっている。平成 29 年度入試志願者数は、265 名（定員 80 名の 3.31 倍）となり、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。3 年次編入生も 4 名（定員充足率 80%）であった。富山短大福祉学科からの編入生が 3 名おり、これからも学園内連携を推進していきたい。

(2) 教育課程・授業の展開及び教員組織

平成 28 年度は、学部第 2 期運営計画による新教育課程の 3 年度であり、教養科目の科目区分再編成の下で、3 年次「キャリア支援講座Ⅱ」の選択教科化などを実施した。各学年各分野の授業は、教育課程表に沿って概ね順調に開講された。

教員組織では、専任教員 19 名体制で、呉羽キャンパス事務室事務長、主事の異動など事務組織も変化した。教育・保育・福祉の教員が揃った中で、工夫改善された 3 分野の教育が行われた。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施した。特に後期は全教科において実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用した、教職を目指す学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

(3) 学生生活支援・家庭との連絡

学生数の増加に伴う校舎等施設利用のあり方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会(2 回実施)や学友会(全員加入制)

との連携にも引き続き努めた。

平成 27 年度の文科省「私立大学教育研究活性化設備整備費補助金」により、E 棟 406 室をアクティブラーニング実践型講義室への改善整備に続いて、28 年度も同補助金 11,407 千円により、eNetLibe スーパー英語による英語の e-learning システム導入により語学力の向上への改善を行った。

個別的な学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担当教員・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」（第 15 報・第 16 報）の配布、年 2 回の保護者相談会（6/25(土)、10/22(土)）のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭（保護者）との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部の第 4 回ホームカミングデーにも多くの同窓生が参加した。小学校教育研究会の活動は活発であったが、保育分野、福祉分野での活動は在学生のみに留まっている。

(4) キャリア支援

キャリア支援については、「小学校教員採用 10 名、公立保育士採用 10 名、社会福祉士国家試験合格 10 名」を目標に、キャリア支援入門講座や支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担当教員の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 89 名に対して「小学校教員試験合格 18（既卒者 6 含む）、公立保育士採用 17 名（既卒者 5 含む）、社会福祉士国家試験合格 15 名」の成果を上げることができた。なお、臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 28 名（27 年度 13）、保育・幼児教育分野 23 名（同 30）、社会福祉分野 20 名（同 13）、教育系大学院等進学 3 名（同 3）、公務・警察 3 名（同 0）、企業 10 名（同 17）、その他 2 名（同 3）であり、卒業生の約 8 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。初めて、小学校分野に進んだ人数が、保育・幼児教育分野を上回った。また、社会福祉士国家試験の合格率は 44.1%（現役合格率は 60.0%で全国第 36 位、全国の平均合格率は 25.8%）の偉業を達成した。

(5) 研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金（科研費）助成研究 5 件（前年度 5）、（財）富山第一銀行奨学財団研究助成 3 件（同 4）などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 8 巻 12 件（同 17）を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンも 1 回（同 1）開催した。

(6) 地域交流・貢献活動

初年次に開設した「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセミナー及びフォーラムの開催（各 1 回）とニュースレター「子ども育成研究」の発行（2 回）、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム 33 件（同 11）、教育・福祉・保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

(7) 大学改革・教育改革への取組み

全学的な取組みの中で、文科省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC＋事業）の参加校として採択されたことに伴い、本学が申請していた「地域課題探求型学習を核としたとやま地域創生人材育成プログラム」として平成31年度までの5年間、「地（知）の拠点大学」として認定された。

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催（11回）及び学部運営委員会の開催（7回）をはじめ各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

2. 課題

(1) 第6期生の高い就職・進学実績の実現

第1～5期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、その成果に安住しているわけにはいかない。6期生は、人数が多い学年であり、活発な学年である。是非、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で、目標をより高く掲げて、過去5年間の水準を上回る成果をめざしていかなければならない。社会福祉士国家試験で、卒業生は9名受験したが合格0であったことから、卒業生への支援に取り組まなければならない。

(2) 学部総定員（収容定員）の確保に対応した教育の質の向上

平成28年度に続いて29年度においても、学生定員の確保（総定員の充足）を維持することができることとなった。しかし、都会からの富山大学への受験が増え、県内高校から富山大学への進学率が下がった。そのため、歩留率が高まり13割を超える入学者になった。今後は、定員を大幅に上回って入学した第9期生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導、高いレベルと考えられている第7・8・9期生に対する教育・指導の充実など教育の質のより一層の向上が課題である。

(3) 再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成29年度当初には、新規採用教員1名を含む専任教員18名の体制である。教員数は昨年より1名減となり指導面においてかなりの困難が予想されるが、協働体制を強化して臨みたい。全ての学年で定員を超える。史上最大の在籍者を擁する中で、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

2. 現 況

1. 学生の状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

	在籍者数	内訳 (1)	内訳 (2) 出身県									
		男：女	富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	山形	茨城	神奈川	
1年生(定員 80名)	88名	19：69	82	5	1							
2年生(定員 80名)	92名	23：69	86	2	2			1			1	
3年生(定員 85名)	102名	28：74	96	2	1	1				2		
4年生(定員 85名)	90名	19：71	84		1	1		2	1			1
計(定員 330名)	372名	89：283	348	9	5	2		3	1	2	1	1

(参考) 平成 25～29 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備 考
29 年度入試	80名	265	195	116	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5名	4	4	4	3 年次編入学
28 年度入試	80名	229	188	89	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5名	6	4	4	3 年次編入学
27 年度入試	80名	259	174	94	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5名	8	6	6	3 年次編入学
26 年度入試	80名	248	188	101	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5名	4	4	4	3 年次編入学
25 年度入試	80名	236	169	85	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3 年次編入学	5名	1	1	1	3 年次編入学

2. 教員組織（平成 28 年度）

区 分	人数	内 訳
子ども育成学部専任教員	19名	教授 7 准教授 8 講師 4
学園内教員（兼担・兼任）	15名	現代社会学部 3 富山短大 12
学園外教員（非常勤講師）	36名	
計	70名	

3. 呉羽キャンパス事務室（平成 28 年度）

区 分	人数	内 訳
専任事務職員	3名	事務長 1 主査 2
兼任職員（短大）	2名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2名	参事（キャリア支援担当） 1 職員 1
計	7名	

3. 教育課程

1. 実績と現状

(1) 新規の取組み

- ① 全学FD・SD研修会「英語で授業を行うためのポイント」講義と模擬授業
講師：James Porcaro（平成28年7月）

(2) 教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
 ② 教養演習：(1・2年共通) 初年次教育(平成28年4月) リテラシーガイダンス(平成28年4～5月)、ゼミ別活動合同発表会(平成28年7月)、大学祭展示発表(平成28年10月)、個人研究ゼミ発表(平成28年10月～平成29年1月)
 ③ 卒業研究：(3年) 中間発表(平成28年10/22～10/28)
 (4年) 中間発表(平成28年5/16～5/26)、卒業研究発表会(平成29年2/11)
 ④ 地域社会参加活動：(1年) 20時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
 ⑤ 富山県私学祭出品：41点(1、2年：美術32人・書道9人) 出品(平成28年11月：富山県高岡文化ホール)
 ⑥ 学外施設等を利用した授業：

授業科目	開講時期	利用施設等	実施日
日本の動き	1年前期	北日本新聞社(越中座)	28.5/26(木)
図画工作	1年前期	射水市大島絵本館	28.7/7(木)
地域社会参加活動	1年通年	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	28.5/15(日)
子ども文化	1年後期	富山県こどもみらい館	28.11/2(水)
自然体験活動	1年通年	富山市ファミリーパーク	28.7/29(金)
		呉羽青少年自然の家	28.10/5(水)、10/26(水) 29.1/13(金)
		富山県中央植物園	28.11/30(水)、12/7(水)
保育内容(環境)	2年前期	富山市・射水市の公園	28.4/26(火)～5/11(水)
体育	2年後期	富山県総合運動公園陸上競技場	28.8/18(木)、8/19(金)
		富山市民プール	28.8/24(水)、8/31(水)
図画工作科教育法	2年後期	富山県立近代美術館	28.11/3(木)
子ども活動実践演習	3年前期	富山短期大学附属みどり野幼稚園	28.7/2(土)
保育内容(造形表現)	3年後期	富山県立近代美術館	28.11/5(土)
富山の保育・教育特別講義Ⅱ	3年後期	富山県教育記念館	28.12/8(木)
教職実践演習(幼・小)	4年後期	富山県立イタイイタイ病資料館	28.12/8(木)
更生保護制度論	4年前期	富山刑務所	28.5/25(水)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	3～4年通年	宮田ゼミ(4年) Share 金沢、金沢星稜大学	28.7/8(金)
〃	〃	村上ゼミ(4年) 能登ロイヤルホテル	28.9/9(金)～10(土)

〃	〃	石倉ゼミ（3年）くろべ牧場まきばの風	28.10/ 2(日)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	3～4年通年	本江ゼミ（3年）割山森林公園天湖森	28.11/ 5(土)～ 6(日)
〃	〃	辻井ゼミ（3年）善光寺、松本城、旧開智学校	29. 2/16(木)、2/27(金)
〃	〃	水上ゼミ（4年）舞鶴引き上げ館、天橋立、玄武洞周辺巡検	29. 3/ 2(木)～ 3(金)
〃	〃	辻井ゼミ（4年）能登島ガラス工房	29. 3/ 2(木)～ 3(金)
〃	〃	松山ゼミ（3・4年）中谷宇吉郎雪の科学館	29. 3/ 6(月)～ 7(火)
〃	〃	水上ゼミ（3年）上田市真田館、沼田城周辺巡検	29. 3/ 9(金)～ 10(土)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ（公開授業見学）	〃	富山市立堀川小学校	28. 6/ 3(金)～ 4(土)
〃	〃	富山大学人間発達科学部附属小学校	28. 6/10(金)
〃	〃	富山市立奥田小学校	28.10/ 1(土)

⑦ 授業改善の取り組み：授業アンケートの実施（前・後期末2回）

[後期は平成28年度において初めて全科目実施]

⑧ 平成28年度「入学前オリエンテーション」の実施（平成28年12月 呉羽キャンパス）

[推薦入学予定者34名、3年次編入生4名]

2. 課題等

(1) 教養演習の運営方法、活動内容

ゼミ配属については、前年度同様、病気に罹患したり欠席したりしがちである要配慮学生を一部のゼミに偏らないよう注意した。自校教育については、前年度同様に、4月の教養演習（第3回目）において、「【初年次教育】学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』」として実施した。

また、ゼミ別の共同研究に入る前の【リテラシーガイダンス2】の「研究とは、調査研究の基礎、文献収集と管理」で、教養演習に対する動機づけと研究を進める上での倫理的問題についての講義も行い、指導の強化を図った。

(2) 卒業研究の運営方法

今年度から、3年生は10月の大学祭からの1週間に中間発表を行うこととした。4年生は、前年度同様、5月に中間発表、2月に卒業研究発表会を行った。

また今年度の卒業研究発表会は、教育と福祉のハイブリッドを活かした発表形式へと変更を行った。具体的には、①4教室の各会場に、小学校教育分野、幼児・保育分野、社会福祉分野、一般分野の各ゼミ（4～5ゼミ）をバランスよく配置した上で実施したこと、②講評については、これまで全ての発表終了後に行っていたが、今年度は午前の部、午後の部にそれぞれ分けて、各分野に精通した教授から2回行われたこと、の2点であった。

その他、4年生は、これまでの調査等で分析した内容をいよいよ言語化しながら論文を完成させていく最終作業を行う一方、実習に就職活動に、そして国家試験勉強にと非常に忙しく、かなり負担も大きいと考えられ、改めて次年度からは卒業研究論文の提出期間の見直しを検討することとしている。

(3) 大邱（テグ）大学「グローバル融合基盤創業キャンプ」の開催

富山国際大と県立大、韓国の大邱（テグ）大学校の3大学による「グローバル融合基

盤創業キャンプ」が呉羽キャンパスにおいて、8月9日（火）から2泊3日の日程で42名（子ども育成学部は3年1名、4名の計5名参加）の学生の参加のもと、初めて開催された。富山でのキャンプは、本学と学術交流協定を結んでいる大邱大学校が提案し、「高齢者・障害者支援システムの構築」をテーマに、英語でコミュニケーションを取りながら議論し、最終日にプレゼンテーションを行った。

（4）海外への研修を伴う授業科目が抱える課題と今後の展開

今年度の「異文化研修」（1・2年次開講、2単位）は、新たにカナダのレスブリッジ大学（アルバータ州・レスブリッジ市）との協定により、1年生5名、2年生5名、3年生1名、計11名が、春季休業期間中（3月3日～3月16日 計14日間）に研修プログラムに参加した。また、次年度から学部では、新たに「インターナショナルプログラムズ（長期）」、「インターナショナルプログラムズ（短期）」、「小学校英語指導法」を開講するほか、全学的には、副専攻プログラム「グローバル人材育成プログラム」という新たな教育プログラムを開設することから、国際性と英語力の強化に向けた教育課程の充実を図っているところである。

（5）特色ある教育プログラム「副専攻プログラム」の開設と今後の期待

全学的には、上述の「グローバル人材育成プログラム」のほか「地域創生人材育成プログラム」も次年度から開設できるよう「Ⅰ.地域志向科目及び地域関連科目」をはじめ「Ⅱ.正課外地域活動」、「Ⅲ.地域課題解決型研究・調査活動」に該当する科目を設定し、広い視野を持って地域社会で活躍できる人材育成に向けた教育課程を整理した。

4. 実習

1. 実績と現状

(1) 実習の取り組み状況

- ①「幼稚園教育実習Ⅰ」：附属みどり野幼稚園など5園66名(H28.11)、報告会(H28.12)
- ②「幼稚園教育実習Ⅱ」：18カ所24名(H28.9)、報告会(H28.12)
- ③「保育所実習Ⅰ」67カ所68名(H28.9)、報告会(H28.12)
- ④「保育所実習Ⅱ」50カ所50名(H28.6)、報告会(H28.9)
- ⑤「施設実習Ⅰ」：22カ所65名(H28.11～12、2班体制)、報告会(H29.1)
- ⑥「施設実習Ⅱ」：6カ所7名(H28.6)、報告会(H28.9)
- ⑦「小学校教育実習」：57カ所65名(H28.9)、報告会(H29.1)
- ⑧「介護等体験」(小学校教員免許関連)：社会福祉施設2ヶ所(5日間)+特別支援学校2カ所(2日間)74名(H28.6～H29.1)、報告会(H29.1)
※補足：平成28年度より介護等体験の履修を2年次から3年次へ変更になり、履修者は編入生の2名のみであった。
- ⑨「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：14カ所25名(H29.2～3)
- ⑩「スクールソーシャルワーク実習」：中学校2カ所・生活保護受給世帯2カ所2名、やわやわカフェ(H28.5～12)、報告会(H29.2)
- ⑪「富山に学ぶインターンシップ」：26カ所28名(H28.6～12)、報告会(H29.1)

(2) 実習指導センター会議の開催

実習指導センター会議を5、8、9、10、3月に開催し、実習履修要件抵触者の検討及び対応・経過を確認するとともに、各実習の課題等を協議した。

- ② 習履修延期者・小学校教育実習(2名)、相談援助実習Ⅰ・Ⅱ(1名)
- ② 保育所実習Ⅱ・実習中断者(1名)、F評価後→再実習(1名)
- ③ 幼稚園教育実習Ⅱ・実習中断者(1名)
- ④ 幼稚園教育実習Ⅰ・てんかんの学生への対応協議→大学、保健管理センター、実習先と連携を密にし、対応を共有しておくこと。学生には、服薬管理を徹底することや体調を損なうことのないよう、事前に指導することを確認し、実施した。
- ⑤ 実習時期の検討・4年次の就職活動との関連で、保育所実習Ⅱ・施設実習Ⅱの実習時期を検討したが、これまでの実施実績等々を鑑み、従来通り6月に実施することとした。

2. 課題

(1) 実習中断者及び健康不安学生等への対応

実習中断者及び健康不安学生等が増加傾向にあることから、その対応を検討する。

(2) 施設実習Ⅰを2班体制から1班体制へ

施設実習Ⅰが2班体制(11～12月)で、その補講が2月まで及ぶことから、実習先を新規開拓する等、可能な限り1班体制になるよう検討する。

(3) 実習指導センターの充実

年間11実習に関する様々な手続き等を行う実習担当職員の配置を希望する。

5. 学生生活支援

1. 実績と現状

(1) 新規の取り組み

- ①大学祭における3年生の卒業研究中間発表のパネル展示
- ②大学祭の模擬店の食品衛生の強化と安全・原状復帰のための油対策ボードの導入
- ③大学祭における短大学友会主催ライブの観覧チケットの本学部生への販売
- ④大学祭における富山市保健所による自殺防止キャンペーン
- ⑤昨年度開始された学友会執行部による大学周辺の地域清掃活動(通年)の、学友会主導による1～2年生全員参加への拡充
- ⑥異年齢交流のイベントを通じて学生の自主性・社会性を高めるサークル「I・C・S」、および茶道サークルという新しい2サークルの創設による、サークル活動の活性化
- ⑦地域住民からの提起に対応した旧8号線の路線バス等における乗車マナーの指導

(2) 現状 (①=1年生、②=2年生、③=3年生、④=4年生)

1. 学部交流会：①②③④ アルビス小杉総合体育センター (H28.4)
2. オリエンテーション交流合宿：①② 砺波青少年自然の家、(H28.4)
3. スポーツ文化交流会：①②③④ 東黒牧キャンパス(運動系・文化系)、
呉羽キャンパス(清掃活動) (H28.6)
4. 学友会の運営支援：①②③④ 総会 (H28.4)、七夕コンサート：地元自治会の招待
交流 (H28.7)、オープンキャンパス (H28.7・8)、
クリスマス会 (H28.12)、音茶会 (H29.3)
5. 大学祭実行委員会の運営支援
6. 大学祭(第8回仁友祭)の開催 (H28.10)：
テーマ：「輪 ～∞の可能性～」
①② ポスター発表：教養演習
③ 卒業研究中間発表
④ 卒業研究ゼミ紹介
①②③④ 各実習紹介
①②③④ 各サークル企画イベント
①②③ 模擬店
7. クラブ・サークル活動への支援：①②③④ 運動9・文化19 計28サークル
(運動系) バドミントン バasketボール バレーボール 体操競技
テニス フットサル 女子軟式野球 ビーチボール SPORTY
(文化系) アカペラ ダンス 美術 演劇 JAZZ 吹奏楽部 音楽 イラスト 合唱
東北震災復興支援サークルへそ 小学校教育研究会 SSW研究会
保育サークル～にこにこ～ Tuins English Club
社会福祉サークルはび☆まる 学生団体MUL 書道サークル I・C・S
茶道サークル (H28.3 現在)
8. 「夢への架け橋事業」への応募・実施：①②③④ 1件

- (イ) 科学実験教室・自然体験ボランティア活動（助成額：60,000円）
 - (ロ) 限界集落支援事業（4年目）（助成額：130,000円）
 - (ハ) まるごと体験教室：（助成額：45,000円）
9. 富山国際学園関連施設（みどり野幼稚園、にながわ保育園）での継続的ボランティア活動の実施：みどり野サポーター②10名、③19名、④12名 計215回、にながわサポーター③④16名、計13回
 10. 学生の要望をめぐる懇談会（学友会と教職員）：①②③④ 2回実施（H28.6、H28.12）
 11. 富山市呉羽消防署署員による救命救急講習会：①② H28.8実施
 12. カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：随時実施
 13. 防災訓練：①②③④（H28.9）
 14. 交通安全講習会：①②③④（H29.2）

2. 課題

（1）学生駐車場不足の問題

昨年度までは、1年生を除き2年生以上は学生駐車場の駐車許可証を希望する学生の全員が許可証の発行を受けることができた。しかし入学生数の大幅な定員超過が続き、本年度は初めて1・2年生の全員が許可証を受けられなくなった。本学部生の福利厚生上の大きな変化であったが、本年度前半の駐車場の使用状況を再調査し調整を進めた結果、後期は希望する2年生全員にP5限定ながら駐車許可証を発行するという改善を行うことができた。

さらに来年度については、短大学生の駐車場希望者が減少したため、本学部生2年生以上の希望者全員に駐車許可証を発行できた。来年度は短大付属みどり野幼稚園の改築工事が始まるので駐車場の実質減が見込まれ、新入生の大幅定員超過により駐車場不足問題は深刻化するとも予想される。新入生増は、駐車場や教室等の拡充と並行して進める必要がある。

（2）旧8号線店舗前バス停の行列問題とバス乗車マナーの問題

地域の飲食店舗前にあるバス停を利用する本学園生（高校生・短大生・本学部生）が夕方の店舗の繁忙時間帯にバス待ちの行列が店舗駐車場の入口を塞いでいることへの苦情が届いた。3月の呉羽キャンパス整備等検討委員会ではその現状と対策が議論され、分担して4月の現地指導を行うこととなった。

（3）大学祭の飲食模擬店をめぐる衛生問題や安全問題等

事後の原状復帰や衛生問題や安全問題については、安全ボードを新たに導入するなどの対策強化を行った。学生指導を強化してもなお、高校校舎裏の排水溝に捨てられた排油が減少しながらも捨てられた様子が見られるなど、なお短大と連絡・協力しながら改善を図る必要がある。また11月の明治神宮外苑での日本工業大学学生のイベントでの火災による幼児死亡事故を12月の学生・教職員懇談会で例示しながら安全対策の重要性を指導したが、衛生と安全は持続的課題である。

（4）学友会による大学周辺の学外地域清掃活動

平成27年度から始まった大学：5、7、11、1月、短大：3、6、10、12月、高校：4、8、

9、2月、各月3回、計12回ずつの学外地域清掃活動については学友会執行部だけでなく、一般学生の意識を高めることが課題であった。これについては、1~2年生全員でゼミ単位で対応する形へと発展させた。今後は、この活動から学生が何を学ぶかという教育的視点に配慮することが望まれる。

(5) 学友会の改善

学友会は全員加入の自治組織であることを徹底する必要があるという課題については、その方向で指導してきた。たとえば12月の学生・教職員懇談会も単なる学生の要望提出の場であるだけでなく、懇談会の開催時間等についても学友会の提案を実現し、また3月の音茶会の内容方法についても学友会の自主的な提案を実現するように留意して、単なる要求機関ではなく学友会の自主性を育てる方向の指導を旨とした。それはまだ端緒に就いたばかりの段階であり、「知性・教養・個性」という学園の建学の精神に拠って今後継続発展が必要な課題である。

6. キャリア（資格取得・就職）支援

1. 実績と現状

(1) キャリア支援計画

1年次から4年次までのキャリア関連講座を分野（小学校教育、保育・幼児教育、社会福祉、一般企業）ごとに立案・実施

① 正規科目：今年度、新たにキャリア支援講座Ⅱ（3年・通年）を設定した。既に単位化したキャリア入門講座（1年・後期）は、現場の専門家による特別講義を開催（小学校分野(1/18)・保育分野(12/12)・社会福祉分野(12/21)）。キャリア支援講座Ⅰ（2年・通年）も、分野ごとにシラバスを作成し、実施した。

② キャリア支援講座Ⅲ：来年度より正規課程に導入されるキャリア支援講座Ⅲ（4年・通年）を時間割に組み込んだ（H28.4～H28.1）（分野：小学校教育、保育・幼児教育、社会福祉）。一般企業は単位認定しないが、適時情報提供に努めた。

(2) 就職状況の周知

学生には就職活動状況を、教員にはゼミ生の就職状況をその都度キャリア支援センターに報告することとし、毎月教授会等で就職状況を全教員に周知した。

(3) 資格・免許希望調査

キャリア支援講座Ⅰの分野希望及び資格・免許履修の確認をした（H29.2）。

(4) 公務員・教員採用試験対策講座：呉羽キャンパスにて6日間実施（H28.3）

(5) 模擬試験の実施：

小学校教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H27.6,12）

幼稚園教諭・保育士・保育教諭希望3、4年生対象（一般教養・教職教養 H28.4/26、専門教養 H28.5/10）

社会福祉士希望3、4年生対象（中央法規 H28.8、日本社会福祉士会 H28.10、ウィネット H28.12）

(6) 社会福祉分野の就職に関する懇談会

①日時：平成29年2月22日（水）16：00～17：30

②場所：富山国際大学呉羽キャンパス E棟会議室

③参加者：一般社団法人富山県社会福祉士会長、富山県医療ソーシャルワーカー協会長、富山県健康・福祉人材センター長、富山国際大学子ども育成学部非常勤講師、富山国際学園学事顧問、富山国際大学子ども育成学部教員（計12名出席）

(7) 各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

(8) 福祉職場説明会への参加

富山国際会議場にて、福祉・介護分野（H28.7/23,7/24）では4年生11名の学生が、児童分野（H28.8/6）では4年生6名の学生が参加した。なお、児童分野では富山県保育士・保育所支援センターと連携をとり、今年度から2年生4名、3年生2名も参加した。

(9) 学内合同企業説明会への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内合同企業説明会」に、一般企業を希望する学生計5名が参加した。（H29.3/8, 3/9）

(10) 自主研修

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の学年別内訳は、4年生（3名）、3年生（36名）、2年生（1名）、分野別では、小学校分野（7名）、幼保分野（23名）、福祉分野（10名）であった。

(11) その他

小学校で理科実験の準備や後片付け等を行う「観察実験アシスタント」に、4年生(2名)、3年生(5名)、2年生(6名)、1年生(13名)の計26名が登録、のべ28名が勤務した。

また、砺波市庄西中学校学習支援ボランティア(放課後学習会)や夏休み学習支援スタッフ、高岡市中学校土曜学習支援員、射水市学力向上対策事業における学生講師(中学生夏休み補充学習や土曜塾)として活動した。

2. 課題

来年度、キャリア支援講座Ⅲの開講をもって、全学年を対象としたキャリア支援体制が整うが、これまでの運営状況を確認し、教員間や指導内容を分析し、改善を要するところがあれば対処する必要がある。また、次年度の就職懇談会は幼保分野を予定しているが、懇談時期・内容を早めに準備する必要がある。

平成28年度卒業生(89名)の進路状況

(平成29年3月15日現在)

小学校教育分野 28 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 23 保育士・幼稚園教諭	社会福祉分野 20 社会福祉士・相談員等
富山県公立学校教員 (小学校) 12	富山市保育士 5 小矢部市保育士 2 砺波市保育士 2	[市町村] 富山市社会福祉士 2 砺波市社会福祉士 朝日町児童館(臨時)
富山県公立学校講師希望 16	黒部市保育士 魚津市保育士 高岡市保育士	[社会福祉協議会] 富山県社会福祉協議会 氷見市社会福祉協議会
公務員等 3	滑川市保育士(嘱託) 富山市保育士(臨時) 黒部市保育士(臨時)	[児童福祉施設・事業] 富山県福祉総合センター・ こども支援センター 高岡愛育園 聖霊愛児園
高岡市職員 飛騨市職員(臨時) 富山河川国道事務所(臨時)	いずみ幼稚園 2 富山短期大学 付属みどり野幼稚園	[障害者施設・事業] セーナー苑 2 溪明会 めひの野園 こもれびの里
企業 10	相幸福社会 2 となみ中央福祉会 あいじ福祉会 かたかご会	[高齢者施設・事業] あっとほ〜む婦中 ツクイ富山 至誠学舎立川
中田図書販売 トヨタレンタリース富山 新湊信用金庫 富山第一銀行 フルタフーズ 富山県警備総合保障 パローホールディングス タイヨーパッケージ ヤングドライ 北陸電気工事		[病院] アルペンリハビリ テーション病院 2 北陸中央病院
進学 3	家事・その他 2	
上越教育大学大学院 2 北陸ビジネス福祉専門学校		

■主な試験等の結果（既卒者含む）

富山県公立学校教員（小学校）	18名合格（うち既卒者6名）
富山県内市町村保育士	15名合格（うち既卒者3名）
新潟県内市町村保育士	2名合格（うち既卒者2名）

■複数免許・資格の取得

(1) 1人当たりの法定免許・資格（小・幼・保・社（受験資格））取得数：

4種類＝1名　3種類＝36名　2種類＝31名　1種類＝20名　無＝1名

(2) 資格・免許取得のべ数：

- * 小学校教諭一種免許状： 48名（53.9%）
- * 幼稚園教諭一種免許状： 63名（70.8%）
- * 保育士資格： 56名（62.9%）
- * 社会福祉士（国家試験受験資格）： 27名（30.3%）　うち合格者15名（受験者25名）
- * 社会福祉主事任用資格： 89名（100%）
- * [日本社会福祉士養成校協会認定]スクールソーシャルワーカー： 3名（3.3%）

7. 地域交流・貢献活動

1. 実績と現状

(1) 第8回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ : 子どもの規範意識 ～芽生えと形成～
- ・趣旨 : 規範意識は、子どもたちが自分以外の人と関わりながら日々の生活を送る中で、自然に身に付けていく大切な意識の一つである。幼児期、自由な遊びの中で規範意識の芽生えを捉え、育むにはどうしたらよいのか。また、小学校では、培われたものを受け継ぎ、健全に発展させていくにはどうしたらよいのか。本フォーラムでは、講師の講演を基に幼児期から初等教育期にかけて芽生え、形成される子どもの規範意識について理解を深め成長を助ける教育環境のあり方や、保育所・幼稚園と小学校、家庭と地域の連携のあり方等を共に考え一体となって解決に向ける見識を得ることを目指した。
- ・開催日時: 平成28年6月18日(土) 午後1時30分～4時10分
- ・開催場所: 富山県民会館 401号室
- ・参加者数: 約100名(教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など)

(2) 子ども育成学部第8回公開セミナーの開催

- ・テーマ : 「伝え合う力」を育むために ～子ども育成の専門職に求められるもの～
- ・趣旨 : 家庭や地域に多くの子どもがいた頃、子どもたちの「伝え合う力」は集団の中で身に付けたり苦手な子には周囲が気配りをしてくれたりした。今は少子化が進み、限られた機会や環境でのコミュニケーションになってしまっている。結果として、会話はするものの思いをうまく伝えられない子が増え、子ども育成の現場での悩みの一つともなっている。
今回のセミナーの第1部では、各分野から、子ども同士や職員と子どもあるいは保護者との間で思いを伝え合うことの現状について報告いただいた。第2部ではそれらを基に意見交換を通して専門職に求められるものは何か、子どもたちに必要なもの、心構え、接し方等について学び合った。
- ・開催日時: 平成28年11月26日(土) 午後1時30分～4時15分
- ・開催場所: 富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701-704号室
- ・参加者数: 約100名(教育・福祉・保育関係者、一般市民、学生など)

(3) 高校出講プログラム(平成28年5月～平成29年3月)

4年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しており、高校の授業で行われていない内容であるため、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっている。依頼校の要請に応じて行うので、福祉や教育について広く教養を伝えることを旨とし、テーマについて大学知を伝えられたという点で意義があった。高等学校を対象として、次のような出講プログラムを実施した。

	出講日	教員	テーマ	出講場所
1	5月30日	村上 満 教授	” やさしい ” 福祉学のすすめ	八尾高校
2	6月14日	吉田 昌弘 准教授	教育学	新湊高校
3	6月21日	室林 孝嗣 准教授	社会福祉と介護福祉の違い	金沢商業高校
4	6月21日	竹田 好美 講師	施設実習オリエンテーション	桜井高校
5	7月14日	小林 曜子 准教授	保育って何だろう	富山国際大学附属高校
6	7月14日	松山 友之 准教授	子どもと遊ぶ身近な科学	富山国際大学附属高校
7	9月16日	堀江 英一 准教授	小学校教諭への道	富山商業高校
8	9月24日	松山 友之 准教授	小学校教員になるために	富山国際大学附属高校
9	12月7日	金子 泰子 講師	科学の目から見たトレーニング	水橋高校
10	12月8日	仲井 文之 教授	小学校教育の現状	富山国際大学附属高校
11	12月8日	小林 曜子 准教授	保育って何だろう	新湊高校
12	12月13日	石倉 卓子 准教授	保育者の仕事と適性	上市高校
13	12月14日	堀江 英一 准教授	小学校教諭への道	富山いずみ高校
14	12月15日	竹田 好美 講師	保育施設ウォッチング	富山商業高校
15	12月15日	金子 泰子 講師	目的にあった効果的なトレーニングとは	上市高校
16	12月16日	金子 泰子 講師	身体の基本的な動きづくり	富山総合支援学校
17	12月19日	金子 泰子 講師	ハンマー投げに挑戦しよう	富山総合支援学校
18	1月16日	竹田 好美 講師	身近な素材で・材料でおもちゃをつくろう	泊高校
19	1月19日	竹田 好美 講師	身近な素材で・材料でおもちゃをつくろう	泊高校
20	1月25日	村上 満 教授	” やさしい ” 福祉学のすすめ	となみ野高校
21	1月31日	吉田 昌弘 准教授	一体なぜ学校へいくのでしょうか	高岡南高校
22	3月3日	堀江 英一 准教授	小学校教諭への道	高岡商業高校
23	3月10日	堀江 英一 准教授	小学校教諭への道	高岡龍谷高校
24	3月22日	福島美枝子 教授	英語の学び方・英語の楽しみ方	富山いずみ高校

(4) 地域出向プログラム (平成28年5月～平成29年3月)

	出講日	教員	テーマ	出講場所	対象
1	5月3日	彼谷 環 教授	憲法カフェ	KNBいりふねこども館	子育て世代の父母
2	6月2日	水上 義行 教授	今、求められるボランティア活動 ～身近なものを使ったエコな遊び～	呉羽青少年自然の家	ボランティア講座受講生
3	6月14日	石倉 卓子 准教授	乳幼児の育ちを支える遊び	サンシップ	富山県社会福祉協議会
4	7月2日	彼谷 環 教授	暮らしの中の男女共同参画	CIC	一般市民
5	7月7日	相山 馨 准教授	介護保険における権利意識の高い家族 との対応方法について	老人保健施設 なごみ苑	職員研修 (管理職・相談員等)
6	7月20日	石倉 卓子 准教授	幼児の育ちと保育環境	サンシップ	富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ
7	10月20日	村上 満 教授	地域福祉について	富山県生活協同組合西 部センター	組合員
8	10月24日	相山 馨 准教授	地域における認知症の方への見守り	婦中東地域包括支援セ ンター	地域住民
9	12月6日	水上 義行 教授	地域社会での子どもの育成 学校・家庭・地域が連携した子育て	小矢部市立大谷中学校	大谷校区学校 家庭・地域

(5) 平成28年度教員免許状更新講習

・内 容：必修領域・選択必修領域開講

- ・募集期間：平成 28 年 7 月 11 日（月）～7 月 20 日（水）
- ・日 程：平成 28 年 8 月 18 日（木）・19 日（金）
- ・受講者数：98 名（幼稚園教諭免許状 97 名・小学校教諭免許状 1 名）
- ・認 定 者：98 名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701 室・702 室

（6）平成 28 年度幼稚園教諭免許状特例講座

- ・内 容：必要 8 単位分の講座
- ・募集期間：平成 28 年 5 月 16 日（月）～5 月 23 日（月）
- ・日 程：平成 28 年 7 月 2 日（土）～12 月 18 日（日）の期間で 16 日間実施
- ・受講者数：88 名（内 31 名は昨年度一部講座受講者）
- ・認 定 者：88 名（取得単位数は各受講者の講座選択状況による）
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701 室・702 室・E 406

2. 課題

（1）子ども育成フォーラム・公開セミナー

子ども育成フォーラムはテーマ、講師の人選、外部行事を調査の上で期日・会場を決めたが、直前になって学園内行事との重なりのあることが分かった。やむなく学園外での開催となった。集客が難しくなっていることもあり、開催時期、広報等を根本的に見直さなければならぬ。

（2）平成 28 年度教員免許状更新講習

平成 27 年度より講習が始まり、今年度は必修領域に加えて選択必修領域が設定された。受講対象者を主に幼稚園教諭と明記。募集定員 50 名に対し受講者は 98 名であった。次年度は募集定員を 80 名とすることが適当と思われる。

3. その他

（1）三大学連携教員研修連続講座の一時停止

これまで、富山国際大学子ども育成学部、富山大学大学院人間発達科学研究科、上越教育大学教職大学院が連携して、毎年 5 回会場を移して開催してきた「三大学連携教員研修連続講座」は、事業としての予算化された期間が終了した。その後、今年度の実施も検討したが、予算化の目途が立たずやむなく一時停止することになった。

8. 後援会・家庭連絡

1. 実績と現状

(1) 後援会総会・個別相談会

H28.6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、44名の相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

(2) 大学祭・保護者懇談会

H28.10 第8回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、45名の希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

(3) 保護者あて「学生の皆さんの概況について」の送付

H28.5に第15報、H28.9に第16報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年教養演習及び卒業研究担当者。

※別紙「第15報」及び「第16報」を参照

(4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担当教員または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

2. 課題

(1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

(2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担当教員個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調書」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継できるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。

開設8年目の子ども育成学部は、入学者累計690名・卒業生総数297名、28年度定員充足率113.6%となり、さらに共存・共生の精神と知性を磨く教育を推し進めてまいります。

6月の後援会総会・個別相談会のご案内に併せて、学部と学生の皆さんの概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などのご参考にしていただければ幸いです。

2. 学生・教職員の現況 (平成28年度始めの現況)

- ・ 学生 1年生91 2年生92 3年生102 4年生90 合計375名 (内訳) [男子91:女子284] [富山353:新潟9:石川5:岐阜3:福井2:山形2:愛知1:神奈川1]
- ・ 教員 専任19(教授7・准教授8・講師4)、学园内兼任15、非常勤講師36、合計70名
- ・ 職員 専任事務3、兼任事務4(東黒牧C2、短大2)、契約参事1、派遣事務1

3. 第4期卒業生(80名)の就職・進学状況 (H28.4.20現在) (3期生を上回る成果を挙げました。)

- ・ 就職率100% 小学校教諭13(うち講師6)、保育士/幼稚園教諭30、社会福祉職13、企業17、大学院3、専門学校等3、家事等1
- ・ 資格/免許 小学校教諭45 幼稚園教諭59 保育士52 社会福祉主事任用資格80 社会福祉士8(受験資格15・合格8(合格率全国53位)) スクールソーシャルワーカー2

4. 平成28年度の新規の取組み

- ① 教養科目の充実、英語・国際関係科目や教員免許関係科目の充実強化に取り組んでいます。
- ② 講義室に天吊液晶プロジェクター等を整備し、遠隔授業を可能にしました。
- ③ 授業・行事や学生生活の様子が分かるよう、大学のホームページへの掲載に取り組んでいます。

5. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人ひとりの夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。これまで7年間の教育実績も、県内外から高く評価され、注目されています。

今年度も、学生の皆さんの強い意志と自己向上努力を軸に、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。今後ともご理解ご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

(子ども育成学部長 辻井満雄)

* 個別懇談会についてのお知らせ

- ・ 6月25日(土)の後援会総会に先立ち、ゼミ担当教員との個別懇談会を開催します。懇談を希望される場合は、ご遠慮なくお申し込みください。
- ・ なお、ゼミ担当教員(学部長)から保護者の方に、ご来談くださるよう別途お願いする場合があります。学業成績や学生生活、学外実習の履修などについてご相談申し上げたいと存じます。
- ・ その節には、万障繰り合わせてご来場くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい学生生活は、概ね順調にスタートしました。1年生の皆さんには、先輩の姿に学びながら、それぞれの目標を模索し、将来の進路を見定めていくことを期待しています。

1. 富山国際大学で学ぶために

- ・ 4月のオリエンテーションでは、学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定、資格・免許などの説明を行いました。学部長からは、目標を持っていろいろなことにチャレンジすることや、常に前向きな気持ちで学生生活を送るよう要請がありました。
- ・ 初年次教育として、学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』を実施しました。学園の理念「知性・教養・個性」と大学の基本理念「共存・共生」を理解し、本学学生としての自覚を深め、勉学意欲の向上を促すと共に、「大学で学ぶとは」という学びの本質論も指導しました。

2. 授業など学習面について

- ・ 毎日の授業では、1コマ90分、夕方6時まで、毎時間の出席確認などにも慣れてきたようです。4月には『教養演習ガイドブック』などを教材に、ノートのとり方やレポートの書き方、5月には統計学などについて指導しました。2年生の先輩の経験談とともに、高校との違いを乗り越える力となればと期待します。なお、7月には、ゼミ毎に進めている共同研究の成果を発表する教養演習ゼミ別合同発表会を行う予定です。
- ・ 8月上旬に期末試験、夏季休業は8月中旬～9月末となっていますのでご理解願います。

3. 生活面について

- ・ 各ゼミ室で教員や学生の交流機会を設けるなど、新入生が大学生活に馴染めるよう工夫しています。また、大学生活が順調に滑り出せるよう、ゼミ担当教員・事務職員・健康管理センター・カウンセラーなどが連携しながら適応支援に努めています。
- ・ 日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。なお、一部にマナー違反、粗野な言動など学部の学風にそぐわない者が見られ、指導を強化しています。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学時代の意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。

4. 就職等キャリア支援について

- ・ 今年も専門職求人は順調で、教員・保育士など区市町村の募集要項も発表済みです。後期には、「キャリア入門講座」を正課の授業科目として開講します。小学校教諭、保育士、社会福祉士の第一線の先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を学生が直接聴く機会も設けます。子ども育成の職場と専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機付けとなり、今後に向けて学習への意欲を高めることを目的としています。

5. 学校行事等について

- ・ 4月22日(金)・23日(土)の両日、砺波青少年自然の家で1・2年生によるオリエンテーション交流合宿を行いました。緑豊かな自然環境の中で、親睦と交流を深めました。
- ・ 4月22日(金)の午前中は、学部の学友会総会ならびに1～4学年全員参加による学部交流会(ビーチボール大会)を実施し、3・4年生とも交流しました。

□ 保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(「教養演習」1年生担当：相山・金子)

2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

2年生に進級して後輩ができたことで、授業や課外活動等において頼もしく活動する姿が見られます。一方、後輩に助言することの難しさも同時に体験しているようです。このような経験を糧に、一人ひとり着実に成長していくことを願っています。

1. 授業など学習面について

- ・ 2年次から教育・福祉・保育分野の専門科目の授業や実習指導が本格的に始まりました。
- ・ 「教養演習」では、1・2年生合同クラス・後輩との学び合いの中で、改めて大学生活の基本を確認しました。今後は、7月のゼミ別活動合同発表会に向けて、ゼミ毎にテーマを決めて調査・探求を行い、1年生をリードしながら研究成果をまとめていきます。
- ・ 保育士資格希望者には、9月の学外実習「保育所実習Ⅰ」(0～2歳児)に向け、事前指導を行っています。また、11月の「施設実習Ⅰ」に向け、6月に児童福祉施設等を見学します。
- ・ 社会福祉士をめざす学生が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導で、専門的な技術とともにキャリア意識も深めていきます。

2. 就職等キャリア支援について

- ・ 「キャリア支援講座Ⅰ」は、昨年度より正課となり、各分野の仕事への理解を深めたり、採用試験の概要を学んだりしています。この講座等を通して、進路を決定し希望を実現できるよう支援していきます。分野選択の悩みなどについては早めに遠慮なくお尋ねください。

3. 生活面について

- ・ 自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しております。特に交通安全についてはご家庭でもご留意をお願いいたします。
- ・ 授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合も多いようです。欠席回数が多いと実習の履修が許可されず資格免許の取得が困難になる、また、期末試験の受験資格を失う場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・ サークル活動が活発になってきました。新たに加わる人、リーダーとして集団をまとめる人、地域で活躍する人など、興味のある活動を通して様々なことを学ぶ機会となっています。授業や実習の合間を縫っての活動ですが、自己実現を支援していきたいと思えます。
- ・ 夜遅くのアルバイトは控えるよう指導しています。基本は「学業が最優先」ですので、ご家庭でも、実情把握と適切なご指導をお願いいたします。

4. 学校行事について

- ・ 4月22日(金)・23日(土)のオリエンテーション交流合宿は、2年生の実行委員を中心に準備を進め、企画運営の経験を積む好機ともなりました。初日は全学年が参加した学友会総会とともにスポーツによる学部交流会も行われ、親睦と交流を深めました。
- 2年生は、実習などを通して卒業後の進路を真剣に考え、絞っていく学年でもあります。保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

(「教養演習」2年生担当：石倉・室林)

4年間の大学生活は、既に折り返しを過ぎて後半に入りました。卒業後の進路を決定する時期が迫ってきたことで不安になっている姿も見られますが、先輩たちを見習い毎日地道な努力を続けてほしいものです。残りの学生生活が有意義なものとなるよう願っています。

1. 学外実習について

- ・ 9月には、15日間の「小学校教育実習」及び「幼稚園教育実習Ⅱ」が予定されています。
- ・ 小学校教育実習に向けては、授業「教科教育法」での教材研究や指導案づくり、模擬授業など、主要教科目の専任教員による体制が整って、より充実した指導が行われています。
- ・ 幼稚園教育実習Ⅱに向けては、内諾実習園の教育目標や9月の幼児の生活について学びながら、15日間の実習で多くの学びが得られるよう着々と準備を進めています。今年度からは毎回指導案を作成したり、集団保育の援助方法を学んだりと課題となっている部分を重点的に指導しています。今後は、教材研究や模擬保育で実践力をつけていく予定です。
- ・ 社会福祉分野では、3年次2～3月の「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」(25日間かつ180時間)のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備も着実にスタートさせています。
- ・ 「実際の子ども達の様子をもっと直接知りたい」と、「富山に学ぶインターンシップ」体験、「自主研修」制度などを活用して、小学校・幼稚園・保育所・施設などに出かける学生もいます。直接子どもと触れ合う中での体験は、学び深きものとなっています。
- ・ 充実した実習のためには、日常の健康管理が大切です。ボランティア活動やアルバイトから得る学びもありますが、大学での系統的な学習が第一であることを忘れず、学業を最優先に考えて、生活リズムを整えていくことを奨励しています。

2. 卒業研究について

- ・ 本学では3年次から4年次にかけて卒業研究を行うカリキュラムとなっており、4月からそれぞれの専門分野に分かれて卒業論文作成の準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようですが、さまざまな先行研究を調べていくうちに、自ずと研究したい命題が出てくるはずです。
- ・ 3年次には、後期に卒業研究の中間発表が予定されており、研究テーマや研究計画などについてポスター発表を行います。4年次には、卒業研究に取り組んだ成果の総まとめとして、卒業研究発表会が予定されています。

3. キャリア支援について

- ・ 今年度から小学校・保育・社会福祉分野の専門職を目指す講座が正課として位置付けられ、前期は火曜日5限に「キャリア支援講座Ⅱ」が開講されています。企業や公務員などを目指す学生にも、授業外ですが就職支援アドバイザーによる講座を提供しています。
- ・ 小学校分野では採用試験対策、保育分野では公立および私立保育所・幼稚園・こども園の採用試験対策、社会福祉分野でははいよいよ国家試験に向けた対策をスタートしたところです。

□ 3年生は、最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

(「卒業研究」3年生担当：小林・大平)

4年生の概況について

「卒業研究」「キャリア支援」(4年生)担当教員

子ども育成での学びもいよいよ最終段階を迎えました。4年生は、この3年間で得た専門的知識と実践力を確かなものにしなが、思い描く未来に向けて着実に歩みを進めています。

1. 授業など学習面について

- ・ 4年次は、社会福祉関係の科目を除き受講時間が少なくなっていますが、卒業に必要な科目・単位、資格免許に必要な科目・単位を満たしているか、折に触れ確認が必要です。
- ・ 最後の学生生活、意欲的な学びで視野を広げ、人間的な成長を期待したいものです。

2. 卒業研究について

- ・ 3年次から始まった「卒業研究」では、学外実習や就職試験対策に取り組みながら、4年生全員が、来年1月の卒業論文提出、2月の卒業研究発表会に向けて研究を進めています。それぞれの力を十分発揮して立派な研究に仕上げてくれることを期待しています。
- ・ 卒業研究の期間は2年間であり、長期にわたります。そこで、本学部では、中間発表会を設けています。今年度は5月16日(月)～5月26日(木)に子ども育成棟4階にてポスター発表を行います。4年生89人が今までの研究成果をA1判(A4判8枚分)ポスターにまとめて掲示しました。
- ・ 中間発表会の期間中、下級生が4年生に向け質問や意見を投げかけます。それを通して、4年生は、研究の具体化や課題の明確化を図ることができ、研究の深化が期待されます。下級生にとっても、学びの集大成である卒業研究を進めて行く上で道標となります。

3. 就職・進学・キャリア支援について

- ・ 今年度も、昨年度を上回る求人が見込まれています。3・4年生全員には、その都度、一斉メールで【求人速報】を配信しています。受験予定者に対する個別相談、履歴書・面接指導にも、時間をかけ丁寧に取り組んでいます。是非、ご家庭でも関心をもっていただき、確かな就職や進学の実現に向けて、慎重かつ適切な対応をお願いいたします。
- ・ 小学校分野では、最後の模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養の演習等に取り組んでいます。富山県小学校教員採用試験7月23～24日には、35名が願書提出の予定です。
- ・ 保育分野では、6月26日～7月5日の市町村保育士採用1次試験をはじめ、民間保育所の求人も寄せられており、模擬試験や集団・個人模擬面接などの指導を行っています。8月に開催される福祉職場説明会や私立幼稚園適性検査への準備も始めています。
- ・ 福祉職を希望する学生には、希望職種に応じて個別に指導しています。5月中に富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませ、7月から福祉職場説明会にも参加します。
- ・ 一般公務員・企業を希望する学生に対しては、希望職種に応じて専門のアドバイザーによる模擬面接の指導や就職情報、採用試験に向けた支援をしています。
- ・ 4月末現在、希望進路の状況(一部重複希望あり)は、小学校教諭35名、幼稚園教諭・保育所保育士24名、社会福祉関係20名、企業等10名などとなっています。

□ 学生生活最後の学年が、悔いのない、実り豊かな人生につながる1年となりますよう、保護者の皆様方と一緒に努めて参ります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(「卒業研究」4年生担当：彼谷・松山)

平成28年度も後半を迎えます。夏季休業中には、女子野球が全国ベスト8の活躍、イングリッシュキャンプやボランティアへの参加など積極的に活動する姿を見ました。また、4年生は小学校・保育・福祉の就職試験や卒業研究、2・3年生は保育所・幼稚園・小学校実習、1年生は地域社会参加活動に取り組みました。学生の皆さんの概況についてお知らせいたします。

1. 就職・進学・キャリア支援について

- ・ 4年生では、小学校教員10名、保育士7名、福祉分野9名、企業7名の合格・内定・内々定が出ています（9月16日現在）。小学校教員は臨任講師への道、保育士は公立（富山・高岡・黒部・砺波・滑川）の2次試験や民間保育所の採用試験、福祉は民間福祉・医療事業所の採用試験や国家試験対策など、それぞれが目標に向かって最後の踏ん張りどころです。企業も含めて、ゼミ担任や各分野の担当教員にご相談下さい。
- ・ 3年生は、「キャリア支援講座」を分野別に集中的に指導します。4年次の採用試験まであと半年余り。実習の成果を振り返りながら、専門・教養ともすぐに対策開始です。
- ・ 2年生は、後期から専門職関連授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が重要です。
- ・ 1年生は、「キャリア入門講座」を開講します。①小学校教諭、②幼稚園教諭・保育士、③社会福祉士の進路選択について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いいたします。

2. 学習面について

- ・ 前期（4～9月）の学業成績を同封しております。一部の学年や科目で、再試験対象者が目立ちました。成績不振のため実習を延期する（⇒資格免許が取りにくくなる）場合は、保護者の方とも個別相談をさせていただきます。日頃の学習の大切さについて、十分ご理解願います。なお、この間に、復学が23年度生1名、退学が26年度生1名、27年度生1名、28年度生1名ありました。
- ・ 教員・保育士・社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて強く厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をもって、授業・予習・復習・課題などに地道に取り組むことが、確かな就職につながります。生活リズムを崩す過度のアルバイトや活動などで、学生生活も将来も貧しくしてしまわないよう、ご家庭でも責任あるご指導をお願いします。

3. 進路・学習・生活面での相談支援について

- ・ 相談支援の窓口には、①ゼミ担任、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援窓口、⑤事務室、⑥健康管理センターなど多様な機関があります。また、⑦メール相談、⑧学友会役員を通しての要望・相談なども可能です。
- ・ 授業や実習等をめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯する時期です。保護者の皆様には、現実的で適切な助言などご理解ご協力をお願い申し上げます。

4. 第7回大学祭と保護者懇談会

- ・ 10月22・23日開催の第8回大学祭のうち、22日の保護者懇談会では、就職などの説明を行います。大勢の保護者の皆様のご来校をお待ちしております。

（学部長：辻井満雄）

1年生の概況について

「教養演習」(1年生)担当教員

大学生になって初めての夏休みも終わり、後期がいよいよ始まります。後期では、専門的な学習や実習が本格化しますので、気持ちを引き締めながら学習に臨んでほしいと思います。

保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 学習面・生活面について

- 大学の授業では、資格免許を取得するための履修科目を自分で選び、その授業内容を確実に理解し、身に付けるために、授業の準備や自主的な学習等が大切です。一部の学生の中には体調不良や寝不足等による遅刻や欠席がありました。自分でスケジュールを管理し、授業に集中できる規則正しい生活習慣と生活リズムが身に付くよう、ご家庭でも引き続きご指導をお願い致します。また、アルバイト等に過度に割いて、折角の大学で学ぶ意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。
- 卒業必修科目に「教養演習」という1・2年生合同で行う授業があります。前期では、各ゼミ別に研究テーマを決め調査・探究活動を行い、7月に「ゼミ別活動合同発表会」で研究発表をしました。「絵本の魅力」「子どもの三大アレルギーについて」「子ども服」「学校給食」等、専門分野の内容を意識したテーマについてプレゼンテーションが行われました。大学祭(10/22~23)では、この発表の内容をもとにポスター展示を行いますので、是非ご来校いただき、ご覧下さいますようお願い致します。
- 前期に1年生全員が受講した「体育実技」の授業では、今話題の「集団行動」に取り組みました。1人1人が集団の中での自分の動きを即座に理解し、一糸乱れぬ移動や隊列変換を短時間で成し遂げました。1年生の皆さんは、自ら考え、仲間を思いやりながら、物事を成し遂げる力に長けていると感じました。子どもと関わる職業に就くためには、集団をまとめ、導く力が必要不可欠です。「集団行動」を通して身に付けた、集団を効率よく、楽しくまとめる力を、今後の諸活動に生かしてほしいです。

2. キャリア支援について

- 小学校、幼稚園・保育所、社会福祉など各分野に向けた「キャリア入門講座」が後期から卒業必修科目の授業として始まり、計画的にキャリア形成ができるよう1年次から指導します。キャリア入門講座の中では、小学校教諭、保育士、社会福祉士の現場で活躍されている方をお招きして、それぞれの現場の話を学生が直接聴く機会を設けます。専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機づけとなり、学習への意欲を高めることを目的としています。ご家庭でも、将来の方向性について、是非この時期から話題にしていきたいと思います。

3. 専門的学習や実習に向けて

- 11月から、「幼稚園教育実習Ⅰ」(卒業必修科目)が始まります。いよいよ卒業後の進路を見通した専門的な学習や実習が本格化します。社会人としての必要なマナーを身につけながら、専門職の素晴らしさや厳しさを体験する初めての機会です。
- 日々の講義で多くの分野について幅広く学びながらも、自分の目指す道を決めていく時期です。これからも教職員一同、全力で教育・指導に努めてまいりますので保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(担当：相山・金子)

2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

夏季休業も終わり、後期の授業・活動に向けて学生たちはそれぞれ準備を始めています。保護者の皆様には、以下の点にご理解とご協力を下さいますようお願いいたします。

1. 授業・学習面について

- ・ 8月末には、幼稚園教員・保育士・小学校教員の資格免許科目の体育の学外授業が、行われました。体育は、卒業必修科目にもなっており、陸上競技場や市民プールにおいて、2年生全員が幼児・児童の体育指導法について、体験を通して学びました。
- ・ 大学祭(10月22・23日)において、前期の教養演習で取り組んだ共同研究をポスター掲示で発表します。ゼミ毎に学生が主体的に調査研究を行った成果をまとめ、参観者に見やすくわかりやすく掲示することをねらいとして、準備を進めています。
- ・ 授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり、単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

2. 実習・キャリア支援について

- ・ 実習の履修要件を満たさなければ、原則として実習に行けません。2年生の成績・態度は、3年生の実習に影響しますので、学生にも注意を促しています。
- ・ 保育士資格取得希望者は、9月に10日間の「保育所実習Ⅰ」を終えました。今年度は自分から積極的に部分実習を申し出て取り組むなど、真摯な姿を見ることができました。後期に行われる保育士資格科目「施設実習Ⅰ」についても、配属が決定しており、2班集体で行います(第1班:11/7~18、第2班:11/21~12/5)。実習に向けて、実習施設についての事前学習と自己課題の明確化、体調の管理が望まれます。
- ・ 小学校教諭一種免許状取得希望者は、来年9月・3年次の「小学校教育実習」に向けて、夏季休業中から自分の母校へ実習依頼に出向き、手続きを進めています。また、免許状取得のために3年次には随時「介護等体験」(特別支援学校2日間・社会福祉施設等5日間)に出かけます。今から、心づもりをして進んで欲しいと思います。
- ・ 3年次前期に行われる「幼稚園教育実習Ⅱ」の履修希望調査が始まります。幼稚園教諭一種免許状の取得について、ゼミ担当教員や科目担当教員と相談しながら手続きを進めていきます。
- ・ 「キャリア支援講座Ⅰ」では、希望する分野に分かれて授業を行っています。小学校分野では教員採用試験で過去に出題された問題や集団討論の練習を、保育分野では製作した保育教材を使用しての実演や個人面接の練習を、社会福祉分野では社会保障の基礎など社会福祉に関わる様々な課題について考える機会をもっています。進路に悩んでいる学生も見られますので、ご家庭でのご支援をお願いいたします。

3. 授業外の活動・生活面について

- ・ オープンキャンパス(7・8月)では、学友会の2年生が中心となって大学生活の紹介を行うなど、様々な係を通して、多くの高校生と触れ合う機会となりました。
- ・ 第8回大学祭に向けて、2年生を中心とした大学祭実行委員が、前期から準備を進めています。様々な困難を乗り越え、達成する力を養う機会となることが期待されます。
- ・ 2年生は自家用車通学が多いため、交通事故防止のための注意喚起を行っております。ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。(担当:室林・石倉)

3年生の概況について

「卒業研究」(3年生)担当教員

充実した夏季休業が終わり、卒業まで1年半となりました。これからは、それぞれがなりた
い自分に向かって、近い将来を見据えて具体的に頑張っていく時期に入りました。

3年生の最近の概況についてお伝えいたします。

1. 学外実習について

- ・ 3週間(15日間)の「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」を夏季休業期間中に行いました。実習指導教員やゼミ担当教員は、実習先を訪問し、頑張っている学生を励まし、現場の先生方と意見交換も重ねてきました。小学校実習では、教諭としての仕事を体験しながら、初めての研究授業に緊張し、指導することの難しさと責任の重さを体感しました。幼稚園実習では、運動会等の秋の行事を準備する中で、子どもの年齢に応じた支援の仕方や指導の方法を学ぶことができました。実習日誌には書ききれない学びがあり、子どもたちとの出会いや思い出・体験等を基に、今後は、自らの適性に合った進路先を決定していくと思われます。大学生活後半を有意義に過ごせるよう教職員一同、支援してまいります。
- ・ 社会福祉分野では、2~3月に「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」(25日間・180時間)が予定されています。寒い季節、長期間にわたる実習ですので、学生の皆さんには、気力体力を充実させて臨んでほしいと思います。さらには、社会福祉国家試験に向けた準備も進め、しっかりと支援や応援をしていきます。

2. キャリア支援(就職・進学)について

- ・ 3年生は、前期に引き続き、「キャリア支援講座Ⅱ」で小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士、企業等の4講座の中から希望する講座を受講していきます。後期では、前期の内容をレベルアップして模擬面接や集団討論を適宜盛り込むなど、学生個々のニーズに合わせたサポートを行います。
- ・ 4年生に進級すると、いよいよ採用試験がスタートします。3年後半を充実して学習し、一人一人が「なりたい自分」になって卒業できるよう、教職員も一丸となって取り組んでまいります。

3. 卒業研究について

- ・ 4月から卒業研究ゼミに配属された3年生は、「卒業研究とは」、「どんなテーマを追究していくのか」等を考えてきました。2年間かけて取り組む卒業研究(学部の特色)の初年度では、これまでの自己の研究の歩みを点検し、卒業論文のテーマを明確にするとともに、文献・資料収集や調査の方法などをポスターにまとめ、10月の大学祭において中間発表を行います。大学祭へご来学の折には、是非ご覧いただき感想をお寄せいただければ幸いです。
- ・ 4年次では、授業や6月の実習(保育所実習Ⅱ/施設実習Ⅱ)と並行して、採用試験の準備や就職活動に多くの時間が割かれます。その分、卒業研究への時間は少なくなりますので、計画的に就職活動と卒論作成の両方に取り組むよう指導してまいります。
- ・ 教育・保育・福祉の各分野で、現4年生の採用試験合格や就職活動の成果が次々聞こえてきます。成功をつかむには、明確な目標に向かって限りある時間を有効に使うことと体調管理が大切です。保護者の皆様には、引き続き、学生の生活状況の把握、日々の励まし等をお願いいたします。

(担当：小林・大平)

卒業まで残り半年を切りました。大学生活4年間の総まとめとなる4年次後期が、いよいよ始まります。4年生一人ひとりにとっては、卒業後の進路に向けた大切な時期にあることへの自覚が求められます。最近の概況についてお伝えします。

1. キャリア支援(就職・進学)について

- ・ 富山県小学校教員採用試験では4年生14名が1次試験に合格し、卒業生10名を合わせた24名がお盆休み返上で、2次試験に向けた特別講座に取り組み、4年生10名が合格しました。さらに、横浜市公立学校教員1次試験に1名が合格し、結果の発表を待っています。保育士・幼稚園教諭採用試験では、9月15日現在で、公立4名・民間3名がすでに内定を得ています。社会福祉関係では市町村職員採用試験や民間の社会福祉施設採用試験で、9名が内定しています。一般企業では7名が内定を得ています。
- ・ 保育士・幼稚園教諭、社会福祉士採用では、求人が早くから出されています。学部では、キャリア支援センターから求人情報について一斉メール速報で提供し、ゼミ担当教員が中心となり、教育・保育・福祉・企業等の各分野担当と連携をとりながら支援しています。就職は、後になればなるほど採用条件が厳しくなりますので、早めに見学・応募することが重要です。ご家庭でのお声かけをよろしくお願いいたします。
- ・ 後期には、社会福祉士国家試験受験者を対象に「キャリア支援講座Ⅲ」が開講されます。1月29日の国家試験に向けて、最終的な受験体制に入ります。当日の試験時間は、午前・午後合わせて4時間の長丁場です。知力のもとより、体力と気力が不可欠となることから、万全の体調管理が求められます。保護者の皆さまの温かい励ましが大きな力になることと思いますので、引き続き、ご協力をお願いいたします。
- ・ 「富山に学ぶインターンシップ」(3・4年次開講科目)では、教育・保育・福祉の実践現場での就業体験を行っています。卒業を前に、専門職のあり方について考える最後の機会でもあります。
- ・ 教員一同、学生一人ひとりの「なりたい自分になる」ためのサポートを行っています。保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いするとともに、ご質問やご相談につきましては、先ず、ゼミ担当教員へのご連絡をお願いいたします。

2. 卒業研究について

- ・ 卒業研究は、4年間の学習や活動の集大成です。1月上旬の卒論提出締切に向けて、一人ひとりが、教育・保育・福祉の分野等を中心に、それぞれのテーマに関する研究を進めています。5月の中間発表では、研究成果を1人当たりA4判8枚分のポスターにまとめて掲示しました。
- ・ 卒業研究発表会は、2月11日(土)に開催されます。卒業研究を始めた頃は、発表会はまだ先の話だと思っていたことと思いますが、授業、実習、就活と忙しく過ごしているうちに、残り時間もわずかとなりました。卒業研究は極めて創造的な作業です。将来どの職業に就いても、この体験はいつか必ず役に立つでしょう。保護者の皆様には、卒論完成まで温かく見守って頂きますようお願いいたします。

(担当：松山・彼谷)

9. 研究活動

1. 実績と現状

(1) 紀要の発行～「富山国際大学子ども育成学部紀要第8巻」の作成（H 29.3）

- 【論文】 大藪敏宏 「富山国際大学の聖地」と共存・共生の精神－郷土に根ざした自校史研究－
大藪敏宏 「司法の偶然性と意識の弁証法－ヘーゲル法哲学における福祉と所有の現実化過程」
堀江英一 「富山県の旧制学校・新制高等学校・特別支援学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～」
福島美枝子 「小学校英語と中学校英語の接続と連携に関する一考察」
松山友之 「実践的な生徒指導の在り方に関する一考察」
松山友之 「小学校理科における問題解決の過程に関する一考察」
水上義行 「現場教員のメンタルヘルスを配慮した、学校のパフォーマンス改善法の経験的研究－射水市立小杉小学校における教員協働と学校便りの分析－」
室林孝嗣 「相談支援従事者養成研修に関する一考察－富山県における現任研修の試み」
吉田昌弘 「教育上の家族内道徳の行為と心情の歴史的把握の試み－文部省国定修身書と道徳副読本における表現例の抽出・検討－」
- 【研究ノート】 大平泰子 「本邦における自傷行為の経験率に関する研究レビュー」
彼谷環・村上満 「政治的リテラシーを高める主権者教育のための予備的考察」
仲井文之 「山田孝雄博士の『五十音圖の歴史』に関する一考察」

(2) 助成研究への取り組み

①文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

- 石倉卓子 「認定子ども園における遊びの質を保障する園庭環境評価基準（幼児版）の試案作成」（平成 27～29 年度）
大平泰子 「青年期の双極性障害における自傷行為の機序に関する研究」（平成 27～29 年度）
水上義行 「学校のパフォーマンスと教員のメンタルヘルスに関する実証的研究」（平成 28～30 年度）
村上 満 「保育ソーシャルワーカー導入に向けた養成支援システム構築に関する実証研究」（平成 27～28 年度）
吉田 昌弘 「「教育」概念によって統合された法制度の形成過程についての歴史的研究」（平成 25～28 年度）

②(財)富山第一銀行奨学財団助成研究

- 彼谷 環 「18歳選挙権実現と「主権者教育」の可能性に関する考察～諸外国における「政治教育」との比較考察の視点をふまえて」（平成 28 年度）
本江理子 「若手保育者の専門的向上に関する研究－養成校と保育現場との協働の可能性を探る」（平成 28 年度）
松山友之 「子どもの科学的な見方や考え方を養う理科教育の在り方」（平成 28 年度）

(3) 研究交流サロン

第 15 回研究交流サロン (H28 年 9 月 28 日)

小林曜子准教授「アートワークショップと子育て支援～色と形と質感で～」

(4) ニュース・レター「子ども育成研究」の発行

「子ども育成研究第 13 号」(H28 年 10 月):

第 8 回子ども育成フォーラム報告・教員の研究活動の紹介

「子ども育成研究第 14 号」(H29 年 3 月):

第 8 回公開セミナー報告・キャンパスニュース (研究交流サロン・卒業研究発表会)

(5) 学生の研究活動

「小学校教育研究会」(タイズ) では通算 5 回の研修会を行ない活発に活動した。特筆事項のひとつは、北俊夫(国士舘大学)教授による講演、「新学習指導要領改訂の方向性と授業づくりのポイント」(12 月 10 日)であり、その後の「北先生と先輩を囲む会」は 30 人余りが出席する盛会となった。また、小学校教諭として活躍する卒業生が増える中、「現場で働く卒業生の声」と題したアンケート調査を行ない、大学の授業で役立っていることや大学で高めたい資質について卒業生から意見を収集した。「保育サークルにここ」では、にながわ保育園で子どもたちのために劇をして実践面の研究を行なった。

2. 課題

(1) 紀要の発行

教員 11 名から 12 編の投稿があった。年度末の繁忙期の提出なので投稿の時期が遅くなる傾向が見られたが、紀要委員会の適切な対応により、例年並みの投稿数が維持された。委員会によって初稿のチェックが行われ、修正後の原稿がウェブ上で出版された。

(2) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金(科学研究費補助金)

平成 27 年度に基盤 C で 3 件の採択があり、今年度の新規 1 件と継続 1 件を加えて計 5 件の研究が行われた。今後も積極的な応募がなされ、採択が続くことが望ましい。各教員における意欲と研鑽に依る部分が大きいだけに、教育活動とともに研究にも専念できる環境づくりの重要性が増している。

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

次年度 7 月に行なわれる財団主催の発表会での発表者は未定であるが、3 件中 2 件は本学部の紀要において成果が発表された。今後もこうした公表の機会を持ち、本学部教員の研究の様子が広く知られるようになることが望ましい。

(3) 研究交流サロン

このところ教員の多忙による日程調整の難しさがあり、年 1 回の実施が定着している。これまでに発表をしていない教員や新任の教員の積極的な発表によって学部内の研究交流を活発にしていきたい。

(4) 学生の研究活動

分野別の活動が盛んに行なわれている。当初の構想にあった「子ども育成学会」の構築へと発展させていくべきか、あるいはそうできるのかどうかを検討する必要がある。

10. その他

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部学位記授与式

- ・第5期生89名卒業：平成29年3月17日(金)10:00～、富山国際会議場3階ホール

(2) E館エレベーター前ホール遮光ロールカーテン設置（アクションプラン事業）

- ・1.4.5階にロールカーテン設置工事を実施（平成28年6月～7月）

(3) 研究室（大学教員）への外線ダイヤルイン化（アクションプラン事業）

- ・大学教員研究室のダイヤルイン化工事について、昨年実施の10回線に加え、残る9回線の工事を行い全研究室が外部からの直接連絡が可能となった。これにより、利便の向上と一部事務の効率化を実現することができた。

(4) ホームページ掲載

- ・子ども育成学部ブログ（H28.4～H29.3.16）

内訳：ニュース60件・イベント6件

（H27年度：ニュース68件・イベント7件）

2. 課題

- (1) 教具・備品、施設・設備等の故障・修繕の増加
- (2) 車椅子利用者に配慮したE館玄関前へのシェルター設置
- (3) 学生数増加に伴う教室不足とその対応。アメニティー空間、学習環境の整備
- (4) 呉羽キャンパス各機関との各種調整（時間割、施設使用、行事日程等）

11. 将来構想

1. 実績と現状

(1) 子ども育成学部アクションプランの策定

① 全学のアクションプラン（平成 26 年度～平成 28 年度）に対応した取り組み

平成 25 年度末に全学のアクションプランが策定され、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行った。具体的な活動計画（3 カ年計画）については、26 年度当初に策定し、全学のプランに組み込まれた。なお、実施期間を延長し、達成できなかった項目について平成 29 年度においても重点的に取り組むこととした。

② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討した。平成 26 年 4 月に、「平成 26 年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」（〔参考 3〕を参照）を策定したものに基づいて、実施に向けて取り組んだ。

(2) 「子ども育成学部第 2 期運営計画（中間まとめ）」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成 24 年 8 月に「第 2 期運営計画（中間まとめ）」を策定し、平成 24 年度から平成 26 年度にかけて、その実現に向けて改革に取り組んできた。平成 27 年度は新教育課程の実施に取り組んだ。

① 平成 28 年度新教育課程の実施 2 年目

平成 26 年度の改革された新教育課程による授業に取り組み、充実を目指した。

② 教員組織の再編成

平成 27 年度と同じ人員で実施した。

③ 学生支援の充実

校友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきたが、同窓会子ども育成学部支部は結成されたばかりであり、特段の支援強化が必要である。

③ キャリア支援の充実・体系化

平成 26 年度新課程から正規科目として実施した。平成 26 年度必修科目「キャリア入門講座」、平成 27 年度選択科目「キャリア支援講座Ⅰ」、平成 28 年度選択科目「キャリア支援講座Ⅱ」

⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

学内学会設立への動きは、依然小学校分野にとどまっており、保育分野、福祉分野での設立に向けた支援強化が必要である。

⑥ 実習環境の整備

実習事務担当者の配置は未達成である。実習協力園の確保については、「幼稚園教育実習Ⅰ」の学外実習協力園の開拓・連携協力が進んでいる。

2. 課題

(1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や新規・重点的に取り組む事項についても、確実に実施して、PDCA サイクル化していかなければならない。

（２）学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧.学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は、現在のところ不透明である。

北陸新幹線の開通 2 年目、北信越・関東地区の諸大学との競争激化も見込まれる中で、富山短大の発展型として呉羽キャンパスに開設した子ども育成学部の将来を確かなものにするためにも、学園の中長期的な構想を積極的に検討していかなければならない。

（３）子ども育成学部の中長期的構想

平成 28 年度の委員会体制として、新たに「学部中学校教諭「英語」教職課程設置委員会」を設置した。将来計画に向けて、「学部中学校教諭「英語」教職課程設置委員会」を 5 回開催し、将来に向けての「まとめ」として発表した。その内容は、全学的な検討に広がり、現代社会学部で将来計画が検討されようになった。

〔参考 1〕「富山国際学園 50 年史」に記された「子ども育成学部の未来像」

平成 26 年 3 月発行の「富山国際学園 50 年史」の中で、宮田伸朗子ども育成学部長は、以下のとおり「子ども育成学部の未来像」について記述している。

子ども育成学部の教育理念・目標は、人口減少時代における健全な次世代の担い手を育成する、資質の高い教育・保育・福祉の専門家を養成することにある。地域における社会的使命達成のための課題は多い。

中長期的課題としては、①中学・高校・特別支援学校教員、心理・精神保健福祉人材などの養成課程開設、②教育課程の一体化を軸とする高大接続、保育・介護系人材養成学科との連携・接続など学園内の一貫教育システムの構築、③いじめ・学力向上、子育て支援など地域課題の解決のための県内自治体との共同研究や協働の推進などがイメージされる。

〔参考 2〕「平成 27 年度予算要求書（1. 子ども育成学部の概要）」に記された「将来展望」

子ども育成学部では、例年の予算要求書の冒頭に「子ども育成学部の概要」を提示し、その中で「将来展望」を記載している。平成 27 年度予算要求書では、以下のとおりである。

○子ども育成に関する社会的要請に応えうる学部の将来構想について検討する。

（例）

- ・ 中学/高校教員免許課程、4 年制保育教諭課程(仮称)、心理・精神保健分野の開設など
- ・ 複数資格履修コースの整備、学部定員増など
- ・ 中長期の課題（特別支援教員免許、高度な専門職教育など）についての研究

〔参考 3〕 子ども育成学部将来計画（中間まとめ）

子ども育成学部将来計画検討会議の中間まとめは以下のとおりである。

子ども育成学部の改革の方向性

1. 学部の教育理念を堅持する。

学部設置の趣旨（文科省認可）及び学則（学部の目的）に則り、「教育と福祉のハイブリッド（統合的視点）による資質の高い専門職養成」に向け「幅広い視野、深い学び、確かな実践力」を育成するために、教育課程の充実・改善を図り、より高い資質を持つ人材を養成する。

（参考） 学則第1条の2(1) 子ども育成学部においては、心身ともに健やかな子どもの育成を通して地域社会の発展に貢献できる人材の養成を目的とし、保育・教育など子ども育成とその環境に関する基礎的・専門的・実践的教育研究を行う。

注) 「保育・教育など」は「教育・保育・福祉」の3分野を指す

2. 時代と社会の教育ニーズに対応して、人材養成教育のさらなる拡充を目指す。

- ・ 新たな養成課程の設置・・・中学校教員養成課程（英語、社会科）、特別支援学校教員養成課程
- ・ 教員組織の増強
- ・ 学生定員の見直し
- ・ 進路分野（資格・免許）選択の早期化・専門分野の促進
- ・ 「幅広い視野、深い学び、確かな実践力」を育成する教育課程

〔参考 4〕 子ども育成学部中学校教員養成課程（英語）検討会議（最終まとめ）

子ども育成学部中学校教員養成課程（英語）検討会議の最終とりまとめは以下のとおりである。

優先順位を就けず、下記の2案を提案

1 現行の教育課程内で英語関係科目を新規に設ける

「英語に強い小学校教員の育成」に主眼を置き、学生募集やキャリアのアピールポイントとする。
（「グローバル人材育成プログラム」と連動させる。）

2 「中学校教員免許1種(英語)の設定する

初等教育と中等教育の連続性に対応し、「英語に一層強く、中学校教育にも関わることができる小学校教諭」の育成を目指す。